

新聞の尊敬表現

——皇太子成婚1959年・1993年の比較から——

遠藤 織枝

Honorifics in newspapers

a comparative survey of expressions in connection with the Crown Prince marriage ceremony in 1959 and in 1993.

Endo Orie

——はじめに——

ここ数年、書きことばの敬語の実態を知るため、新聞の皇室関係記事の尊敬表現の表れ方を調査しているが^(注1)、今回は1993年6月9日の皇太子成婚関係の記事を、1959年4月10日の現天皇の成婚関係の記事と比較しながらまとめてみた。

以下に掲げる調査対象の新聞で、新聞社とそれに属する記者による記事の中の皇室の人物の行為・動作・所有物などを伝える部分をパソコンに入れ、項目ごとに分析するという方法をとった。なお、記事の中でも、関係者の談話や記者以外の人物の寄稿文などは、新聞社の敬語の意識をみるには適さないとして除外した。

調査対象紙

『朝日新聞』(以下『朝日』)、『毎日新聞』(以下『毎日』)、『日本経済新聞』(以下『日経』)、『産経新聞』(以下『産経』)、『読売新聞』

表1 59年 呼称

	朝日	毎日	日経	産経	読売
天皇陛下	3	0	5	3	1
陛下	1	0	1	1	1
天皇	3	0	0	1	1
皇后陛下	1	0	3	1	0
皇后さま	1	1	2	0	3
皇后	1	0	0	0	1
皇太子殿下	1	6	27	2	1
殿下	0	2	1	0	0
皇太子さま	33	25	2	65	21
皇太子	10	1	1	23	32
皇太子妃美智子殿下	0	1	0	0	2
美智子妃殿下	1	4	5	0	3
妃殿下	4	1	6	0	2
お妃	1	0	1	1	0
美智子さま	27	0	0	0	0
美智子さん	13	30	15	87	55
正田美智子さん	2	3	3	7	3
義宮さま	1	5	2	1	2
義宮	1	0	1	0	0
清宮	1	1	0	0	0

天皇皇后両陛下	3	0	5	3	1
両陛下	8	8	7	5	8
皇太子殿下ご夫妻	0	1	0	0	0
皇太子ご夫妻	7	0	0	1	0
お二人	35	17	22	46	33

表2 93年 呼称

	朝日	毎日	日経	産経	読売
天皇陛下	2	1	8	3	4
陛下	1	0	0	5	3
皇后陛下	1	2	0	0	0
皇后美智子さま	0	1	0	0	0
皇后さま	1	2	6	7	8
美智子さま	1	2	4	0	0
美智子さん	0	0	1	0	0
皇太子殿下	0	0	1	18	4
皇太子さま	40	75	119	102	70
皇太子	2	4	2	2	5
皇太子妃殿下	0	0	0	1	0
皇太子妃雅子殿下	0	1	1	1	0
妃殿下	1	0	0	0	0
皇太子妃	1	0	1	1	2
お妃	1	0	0	0	0
雅子さま	45	71	55	78	59
雅子さん	16	34	58	34	29
小和田雅子さま	0	1	1	0	2
小和田雅子さん	3	5	8	8	4
秋篠宮さま	0	0	2	0	0
秋篠宮紀子さま	1	0	0	0	1
紀宮さま	0	0	2	0	2

天皇皇后両陛下	2	8	14	19	10
天皇・皇后	1	0	0	0	0
両陛下	10	8	21	26	21
天皇ご夫妻	2	0	0	0	0
皇太子さまご夫妻	0	0	0	0	1
皇太子ご夫妻	3	6	7	14	5
ご夫妻	1	0	0	0	0
お二人	30	33	67	17	58
二人	3	16	13	0	1
秋篠宮ご夫妻	2	1	3	3	4

(以下『読売』)の1993年6月9日朝・夕刊の東京最終版。

『朝日』『毎日』『日経』『読売』の縮刷版の1959年4月10日朝・夕刊と、同日の『産経』の国会図書館のマイクロフィルムを複製したもの。

対象としたページ数は以下のとおりで、記事量は93年は59年の2倍強である。

	『朝日』	『毎日』	『日経』	『産経』	『読売』	計
1959年 4月10日朝・夕	6	6	5	12	4	33
1993年 6月9日朝・夕刊 10日朝刊	11	13	13	21	13	71

注1 「新聞の敬語—尊敬語の実態を探る試みとして—」(『言語と文化』2号、1989 文教大学言語文化研究所)「新聞の尊敬表現—1989年1月7、8日の新聞から—」(『文教大学国文』19号、1990)

1 呼称

「皇太子」と呼ぶか「皇太子さま」と呼んでいるか、など人物の呼び方の違いと使い分けを59年93年に分けて新聞別にみていく。(表1、表2)

天皇、皇太子などで、59年では敬称のつかないものが「天皇」5例、「皇太子」67例、「皇后」2例、「義宮」「清宮」に各2例みられたが、93年では「皇太子」15例のみで、他の人物で、敬称をつけずに呼んでいる例はない。しかも、この「皇太子」も13例は

①今の天皇の即位に伴い皇太子に。(『毎日』93. 6. 9夕)

のような地位としての「皇太子」であって、その人物を指すものとしては

②皇太子のご結婚をお祝いする(『読売』93. 6. 9)

1例である。「皇太子のご結婚」という語句も

③皇太子のご結婚は天皇ご夫妻以来で三十四年ぶり。(『朝日』93. 6. 9夕)

のような文脈で使われると、儀式としての「皇太子の結婚」を述べていて、徳仁という皇太子個人のことを指しているとは思われなくなり、②も皇太子本人にお祝いを述べているのか、皇室全体へお祝いを述べているのかで、「皇太子」の内容が微妙にずれてくる。59年の記事の

④この時の皇太子の心配ぶりは大変なもの(『産経』59. 4. 10)

のような直接その人物を指して敬称なしで「皇太子」と呼んだような例は93年にはみられない。93年の記事では、④のような場合は

すべて「皇太子さま」となっていて、敬称の有無で敬意をはかるとするなら、93年の方が敬意の高い語形が選ばれていることになる。

ただし、より高い敬意を示す「皇太子殿下」の語は59年の37例から93年の23例へと減っている。93年の方が記事量が増えていることをあわせ考えると、この減少は意味のあるものといえよう。

また、「お二人」「二人」に関しては、敬意の接頭辞のつかない「二人」は59年では見られずすべて「お二人」であるのに対して、93年では「二人」が33例使われ、「お二人」「二人」の使用比は86.1%対13.9%であった。すなわち、「お二人」「二人」では93年の方が59年より敬意の低い語形が多いことになる。

皇后については、59年の皇后の呼称には、良子という皇后本人の名前を出したものは1例もなかったのに対し、93年には「美智子さま/さん」と個人名のもので皇后関連の語形全体のうち25%あった。93年の皇后は、初めての皇族貴族以外の皇太子妃ということで、1958年の婚約発表以後マスコミでその名が頻繁に登場し、名前が浸透しているからであろう。

次に59年93年の皇太子の結婚の相手である女性の呼称について比べてみる。(表3)

表3

59年		93年	
正田美智子さん	18	小和田雅子さん	28
正田美智子さま	0	小和田雅子さま	4
美智子さん	200	雅子さん	171
美智子さま	27	雅子さま	308
～さん 計	218 89.0%		199 38.9%
～さま 計	27 11.0%		312 61.1%
	245 100%		511 100%

59年は「さん」が圧倒的に多く89.0%であったのに対し、93年は「さま」の方が多くなり6割以上を占めている。

59年の「美智子さん/さま」については、「～さま」は『朝日』だけで、他の4紙はみな「～さん」だけを用いていて、「～さま」を用いた例は1例もない。『朝日』は「天皇」「皇太子」など、敬称のつかない呼称も他紙より多く、他の4紙より敬語使用が少ないとみられるが、「美智子さま/さん」に関しては敬意の高い方の接尾辞「さま」を用いている。

また、この2人の配偶者の呼称としては、結婚前は「さん」で結婚後は「さま」との使い分けもあったようなので、当日の新聞の朝刊と夕刊との違いをみてみる。(表4、表5)

表4 59年 美智子さん/美智子さま

	4月10日朝刊				4月10日夕刊			
	美智子さん	正田美智子さん	美智子さま	正田美智子さま	美智子さん	正田美智子さん	美智子さま	正田美智子さま
『朝日』	13	1	2	0	0	1	25	0
『毎日』	16	2	0	0	14	1	0	0
『日経』	7	2	0	0	8	1	0	0
『産経』	57	3	0	0	30	4	0	0
『読売』	25	2	0	0	30	1	0	0
計	118	10	2	0	82	8	25	0

表5 93年 雅子さん/雅子さま

93年	6月9日朝刊				6月9日夕刊				6月10日朝刊			
	雅子さん	小和田 雅子さん	雅子さま	小和田 雅子さま	雅子さん	小和田 雅子さん	雅子さま	小和田 雅子さま	雅子さん	小和田 雅子さん	雅子さま	小和田 雅子さま
『朝日』	16	3	0	0	0	0	35	0	0	0	10	0
『毎日』	33	5	1	0	0	0	57	1	1	0	13	0
『日経』	58	8	1	0	0	0	42	1	0	0	12	0
『産経』	34	8	7	0	0	0	36	0	0	0	35	0
『読売』	29	4	0	0	0	0	39	1	0	0	20	1
計	170	28	9	0	0	0	209	3	1	0	90	1

59年では、『朝日』の4月10日夕刊が結婚後としてすべて「美智子さま」に切り替えたことが目立つ。他紙は結婚の前後にかかわらず「美智子さん」で通している。

93年は、6月9日朝刊では、『産経』の「雅子さま」7例以外はほとんど「雅子さん」であったのが、同日夕刊では5紙一斉にすべて「雅子さま」に切り替えている。6月10日も『毎日』に1例「雅子さん」がある以外すべて「雅子さま」である。6月9日夕刊の「雅子さま」209例に対し「雅子さん」0の見事な切り替えぶりは、新聞間の自由な競争や、新聞記者という自由な言論を標榜する人々の表現活動としては異様な感じを受ける。

2 行為を表す語

2-1 結婚/ご結婚

皇太子の結婚を報道する際に「結婚」とするか、尊敬の意の接頭辞「ご」を用いて「ご結婚」とするか、が分かれるところである。

婚儀、成婚など類似の語も含めて、その語形を新聞別に調べてみた。(表6、表7)

表6 59年 結婚/ご結婚

59年	ご結婚	結婚	ご結婚 の儀	結婚 の儀	ご結 婚	結 婚式	ご婚儀	ご成婚
『朝日』	4	1	0	1	0	1	1	1
『毎日』	3	2	0	1	4	0	1	0
『日経』	11	0	0	0	2	0	0	0
『産経』	17	2	1	0	5	0	1	0
『読売』	12	2	0	1	5	1	0	0
	47	7	1	3	16	2	3	1

表7 93年 結婚/ご結婚

	ご結婚	結 婚	結婚の儀	結婚式	ご成婚
『朝日』	5	2	0	1	0
『毎日』	5	3	2	0	0
『日経』	3	6	5	0	2
『産経』	28	9	3	0	0
『読売』	13	13	3	1	1
	54	33	13	2	3

59年と93年とでは、93年に「ご」のつく形(以下「尊敬形」と呼ぶ)の語が減っていることがわかる。全体で尊敬形と、「ご」のつかない形(以下「ハダカ形」と呼ぶ)の比をみると、59年では尊敬形68例に対してハダカ形12例で、尊敬形が圧倒的に多い。93年では尊敬形57例対48例で両者が接近してきている。

新聞別では『産経』が59年93年とも尊敬形の使用が多い。93年の『日経』は尊敬形5対ハダカ形11、『読売』は14対17と、それぞれハダカ形の方が多く使われている。

2-2 到着/ご到着

ここでは

⑤皇太子殿下は…を通してご到着。(『日経』59. 4. 10)

⑥皇太子さまも皇居に到着。(『毎日』93. 6. 9)

のように、述部の動作を名詞形で表す際、尊敬形が使われるが、ハダカ形が選ばれるかを調べてみた。この種の表現は主に見出しに使われ、また記事文の中では文末に用いられる新聞記事特有の用法ともいえるものである。(表8)

表8 「到着」と「ご到着」

	59年		93年	
	尊敬形	ハダカ形	尊敬形	ハダカ形
『朝日』	4	1	1	16
『毎日』	8	2	3	22
『日経』	11	4	1	26
『産経』	4	3	30	16
『読売』	4	6	7	20
計	31 66.0%	16 34.0%	42 29.6%	100 70.4%

59年と93年とで、尊敬形とハダカ形の使用比が59年は尊敬形がハダカ形の約2倍であったのが、93年ではハダカ形が約2倍になり、ちょうど逆転している。

新聞別では、59年は『読売』以外は、尊敬形の方が多かったが、93年は『産経』以外はハダカ形の方が多くなっている。『産経』だけが93年も尊敬形の方を多く使用している。

次にこれらの動作の主体との関連をみる。(表9)

つまり、

⑦両陛下ご祝福。(『日経』59. 4. 10)

⑧雅子さまは盃を受け取り一献の後に皇太子さまに返盃。(『産経』93. 6. 9)

のように人物による扱いの差があるのか否かである。同一人物を指すのにいくつかの呼称が用いられているが、ここではそれらを人物ごとにまとめて名前で示すのとする。

表9 人物別にみる動作の名詞形の扱い

人物	59年		人物	93年	
	尊敬形	ハダカ形		尊敬形	ハダカ形
明仁	11	3	徳仁	13	21
美智子	3	8	雅子	3	28
明仁+美智子	10	5	徳仁+雅子	22	42
裕仁+良子	5	0	明仁+美智子	3	3
義宮	1	0	美智子	0	1
義宮+清宮	1	0	秋篠宮夫妻	1	3
			明仁、美智子、徳仁、雅子	0	1
			皇族	0	1
計	31	16	計	42	100

59年は全体では尊敬形の方がハダカ形より多かったが、「美智子」の動作については、ハダカ形の方が多い。93年でも「徳仁」のハダカ形が尊敬形の約12.1倍であるのに対

し「雅子」のハダカ形は尊敬形の8.3倍と、皇太子に対する用語とその配偶者に対する用語で待遇の差が大きい。「美智子」「雅子」の待遇は「さん/さま」の扱いの変化と同じように、結婚成立以前の動作に尊敬形は使われていないからである。

また、天皇夫妻の動作、行為としては、59年はすべて尊敬形、93年も尊敬形、ハダカ形同数で、他の人物に対するより尊敬形の使用が多くなっている。

3 動詞の敬意のレベル

動詞「帰る」を例にとると、以下の例のように(1)「お帰りになる」(2)「帰られる」(3)「帰る」の3つのレベルの待遇がある。

⑨人々の歓呼にこたえながら東宮仮御所にお帰りになる(『朝日』59. 4. 10)

⑩お二人がいったんご自分の席に帰られると…次に親子のサカズキが交わされ、(『朝日』59. 4. 10)

⑪東宮仮御所に帰った二人は…に臨まれた(『毎日』93. 6. 10)

新聞ではこの3種のレベルのうちどれが多く使われているのか、新聞による差、文中の位置による差などがあるのかどうかなどを調べる。(1)は「オ・ゴ形」(2)は「レル形」(3)は「ハダカ形」と呼ぶことにする。文の中での使われ方としては⑨の文末、⑩⑪の文中のようなものがあるが、以下は⑨のような文末用法と、文中用法では⑩のような接続用法、⑪のような連体修飾用法の3つに限ってみていく。

3-1 オ・ゴ形

まず、最も敬意の高いレベルのオ・ゴ形の使われ方を59年と93年とで比べてみる。(表10) この語形の中で「ごらんになる」が特に多く使われているので、その例数を()内に示した。

表10 新聞別オ・ゴ形の使用状況

	『朝日』	『毎日』	『日経』	『産経』	『読売』	計
1959年	9(2)	17(5)	5(2)	5	6(2)	42(11)
1993年	2(1)	1(1)	5(3)	5(3)	2(2)	15(10)

59年と比べて93年は、オ・ゴ形、つまり、敬意のレベルの高い語形は大幅に減っていることがわかる。「ごらんになる」の例数はほとんど変わらないが、93年の、オ・ゴ形の大部分は「ごらんになる」であることもわかる。「ごらんになる」は「見る」の尊敬形であるが、会う→お会いになる、待つ→お待ちになるなど「おーになる」の中に動詞連用形を入れて用いるという意識的に尊敬形を作る思考経路での表現というより、見る→ごらんになる、と定型化したものととらえられよう。

ちなみに、「見る」のレル形である「見られる」の語形を選んだものは

⑫皇太子さまは…食事のあと食堂でテレビをみられたが、美智子さんの小さい時からのアルバムが出るとヒザを乗り出して見入られた。(『読売』59. 4. 10夕)

の1例のみであった。

以上の、オ・ゴ形で表現された主体を動作主別にみると以下ようになる。(表11)

表11 人物別オ・ゴ形使用状況

59年		93年	
明仁	11	徳仁	4
明仁+美智子	14	徳仁+雅子	6
美智子	2	雅子	1
裕仁	1	明仁+美智子	4
裕仁+良子	10		
その他	4		
計	42		15

天皇・皇后を動作主とするものが、59年42例中11例、93年15例中4例で、全体の27%を占めている。天皇・皇后を動作主体とする表現より皇太子夫妻のものがはるかに多いことを考えると、この率は高いとみてよく、つまり、天皇・皇后の動作を高いレベルの尊敬表現で示していることがわかる。

次に同じ動詞でのレル形、ハダカ形との使われ方をみることにする。(59年は2回以上のもの、93年は全語についてみる。人物名は表11で記したものの、上の1文字ずつをとって記す。)

	オ・ゴ形	レル形	ハダカ形
59年			
会う	2(明1美1)	0	1(明+美1)
帰る	3(裕1, 明+美2)	1(明+美)	1(美1)
示す	2(明+美1, 義宮+清宮1)	0	0
出る	2(明1, 裕+良1)	5(明+美4, 明1)	5(美5)
のむ	2(明+美2)	1(美)	3(明+美1, 美2)
入る	3(明+美2, 美1)	10(明+美4, 明5, 美1)	10(明+美1, 明1, 美6, 裕+良+明+美2)
見る	11(裕+良6, 明3, 明+美1, ご一家1)	1(明)	1(明)
93年			
会う	2(徳+雅1, 徳1)	2(徳+雅2)	0
うける	1(雅)	12(徳+雅9, 徳2, 雅1)	7(徳+雅4, 徳1, 雅2)
出る	1(徳+雅)	5(徳+雅3, 徳1, 雅1)	1(徳)
見せる	1(徳+雅)	9(徳+雅4, 徳2, 雅3)	4(徳+雅1, 徳2, 雅1)
見る	10(明+美4, 徳+雅3, 徳3)	0	1(徳+雅)

以上、同じ動詞で敬意のレベルの異なる語形の使われ方をみると、「見る」では、レベルの最も高い「ごらんになる」に集中していることがわかる。すなわち、オ・ゴ形、レル形の中の敬意の高い方を選んだというより、「見る」の尊敬形は「ごらんになる」として、この語形を選んでいるものと思われる。ハダカ形も他の動詞に比べて少ない。

59年の「入る」のオ・ゴ形3に対してレル形、ハダカ形20、93年の「受ける」のオ・ゴ形1に対してレル形、ハダカ形12例、「見せる」のオ・ゴ形1に対してレル形、ハダカ形13例などでみると、同じ動詞でもオ・ゴ形が選ばれるのは非常に少ないことがわかる。

人物別では、天皇・皇后を主体とするものは59年のオ・ゴ形11例、93年では4例であったが、同じ動詞でみるかぎり、レル形、ハダカ形の例はない。つまり、天皇・皇后に対してはオ・ゴ形が使われる頻度が高いことがわかる。

次に同じ人物の同じ動作を表わすのに3種のレベルを用いているものを示す。

59年、主体「明仁+美智子」の例

⑬お二人はすでに内陣におはいりになり実際のお姿はすだれの奥へかくれてしまった。
(『毎日』59. 4. 10夕)

⑭そこへ両殿下が並んで入られ…前に進まれる。(『読売』59. 4. 10)

⑮盛儀をととのえ終ったお二人は…を出て…入る。(『読売』59. 4. 10)

93年「徳仁+雅子」の例

⑯ご夫妻となられたばかりの皇太子殿下と同妃雅子殿下が初めておそろいで姿をお見せになり…(『産経』93. 6. 10)

⑰ご結婚後初めて姿を見せられる瞬間だ(『産経』93. 6. 9)

⑱儀式を終えた皇太子殿下と雅子さんが姿を見せる祝賀パレードが。(『産経』93. 6. 9)

59年、93年の例とも同じ場面の同じ人物の同じ動作を伝えるものである。しかも93年の場合は3種のレベルとも同一新聞の例である。⑬が文末で、ハダカ形で表して、同じ『読売』の⑭の文中がなぜレル形になっているのだろうか。また、93年の⑰⑱はいずれも同じ『産経』の同じ連体用法であるのにレベルが異なる。同じ新聞で一方は、オ・ゴ形、他方はハダカ形であるのは、記者の独自の文章の書き方に一任しているということだろうか。いずれにせよ、このような実情を見るかぎり、尊敬形を多用している『産経』であっても、すべて皇室・皇族の人物にいつでも、必ず尊敬形を使わなければいけないと考えているのではないことがわかる。

3-3

次に全体の動詞が3種のどのレベルで表されているかを新聞別にみて、レベル別の比率を出してみる。(表12)

表12 3種のレベルの新聞別使用状況

	『朝日』		『毎日』		『日経』		『産経』		『読売』		平均	
	1959	1993	1959	1993	1959	1993	1959	1993	1959	1993	1959	1993
オ・ゴ形	10 (9.5%)	2 (1.4%)	17 (19.3%)	1 (0.6%)	5 (4.8%)	5 (2.0%)	4 (2.8%)	5 (1.6%)	6 (4.9%)	2 (1.1%)	42 (7.4%)	15 (1.4%)
レル形	36 (34.3%)	7 (5.0%)	35 (39.8%)	56 (36.1%)	52 (49.5%)	89 (36.2%)	75 (52.4%)	219 (69.1%)	31 (25.2%)	70 (38.5%)	229 (40.6%)	441 (42.4%)
ハダカ形	59 (56.2%)	131 (93.6%)	36 (40.9%)	98 (63.2%)	48 (45.7%)	152 (61.8%)	64 (44.8%)	93 (29.3%)	86 (69.9%)	110 (60.4%)	293 (52.0%)	584 (56.2%)
計	105 (100%)	140 (100%)	88 (100%)	155	105	246	143	317	123	182	564	1040

3種のレベルの比率は、59年ではオ・ゴ形が7.4%使われていたのに対し、93年では1.4%に減っている。ハダカ形については、全体で59年から93年への増加は4%であるが、『朝日』『毎日』『日経』での増え方は著しい。『産経』は93年の方が減っており、また『産経』が他紙より記事量が多いため、全体としての増加が4%にとどまっているのである。

59年でハダカ形がいちばん多かったのは『読売』で7割を占めていたが、93年では『朝日』が93.6%を占めるにいたっている。つまり『朝日』は、皇室関係の人物の動作・行為を表す動詞のほとんどに敬語を用いていないということである。

これに対して、『産経』は59年93年ともハダカ形の比率が最も低く、93年でも29.3%、すなわち約7割の動詞は敬語を用いている、ということになる。このように、敬語形の使用率の高い『産経』であるが、オ・ゴ形に関しては59年では4例で5紙中最も少なく、93年でも『日経』と同じ5例で特に多いというわけではない。つまり『産経』は尊敬形は多く使っているが、レベルの高い語形はそれほど多く使っていないということになる。

次にこれらの動詞の、文中での使われ方をみていく。

①ところが皇太子さまと雅子さまは四十回以上もお会いになった。(『日経』93. 6. 10)

②皇太子さまは玄関に姿をみせた(『朝日』93. 6. 9夕)

③美智子さんと固めの盃をほされ、ここをめたく結婚が成立した。(『日経』59. 4. 10夕)

④笑顔で別れを告げ、自宅を出発される雅子さま、(『産経』93. 6. 9夕)

⑤モーニングに着替えられた皇太子殿下は…(『日経』59. 4. 10夕)

⑥洋装に着替えたお二人は…自動車でパレード。(『朝日』93. 6. 9夕)

①②は文中で用いられたもので①は尊敬形のオ・ゴ形、②はハダカ形、③④は文中で接続用法として用いられ、③は尊敬形のレル形、④はハダカ形、⑤⑥は連体修飾用法として用いられ、⑤は尊敬形のレル形、⑥はハダカ形の例である。

文中での位置・用法と、尊敬形、ハダカ形の使い分けとどう関連するかをみるために、

表13 尊敬形、ハダカ形の文中での使われ方

		『朝日』	『毎日』	『日経』	『産経』	『読売』	計	
59年								
文	文	14 46.7%	22 68.8%	26 70.3%	44 72.1%	18 43.9%	124 61.7%	
	末	16 53.3%	10 31.3%	11 29.7%	17 27.9%	23 56.1%	77 38.3%	
中	接 続 用 法	尊 敬 形	16 36.4	13 56.5	19 41.3	7 21.2	9 19.1	64 33.2
		ハダカ形	28 63.6	10 43.5	27 58.7	26 78.8	38 80.9	129 66.8
	連 体 修 飾 用 法	尊 敬 形	16 51.6	17 51.5	12 54.5	28 57.1	10 28.6	83 48.8
		ハダカ形	15 48.4	16 48.5	10 45.5	21 43.8	25 71.4	87 51.2
計	尊 敬 形	46 43.8	52 59.1	57 54.3	79 55.2	37 30.1		
	ハダカ形	59 56.2	36 40.1	48 45.7	64 44.8	86 69.9		
93年								
文	文	5 9.6	38 67.9	53 62.4	104 91.2	42 75.0	242 66.7	
	末	47 90.4	18 32.1	32 37.6	10 8.8	14 25.0	121 33.3	
中	接 続 用 法	尊 敬 形	0 0	5 9.8	13 24.1	48 50.0	12 17.4	78 25.2
		ハダカ形	40 100.0	46 90.2	41 75.9	48 50.0	57 82.6	232 74.8
	連 体 修 飾 用 法	尊 敬 形	4 8.3	14 29.2	28 26.2	70 66.7	18 31.6	134 36.7
		ハダカ形	44 91.7	34 70.8	79 73.8	35 33.3	39 68.4	231 63.3
計	尊 敬 形	9 6.4	57 36.8	94 38.2	222 70.5	72 39.6		
	ハダカ形	131 93.6	98 63.2	152 61.8	93 29.5	110 60.4		

位置・用法別に調べた。ここでは、「オ・ゴ」形と「レル」形を合わせた尊敬形と、ハダカ形とで比べている。(表13)

この表から次のことがわかる。

- (1) 全体的にみて文末と文中では、文末に尊敬形の方が多く、文中ではハダカ形が多い。
- (2) しかし、59年の『読売』と『朝日』は文末もハダカ形の方が多かった。
- (3) 文中の接続用法と連体修飾用法とでは、59年、93年とも接続用法の方がハダカ形が多い。
- (4) 『朝日』は59年も全体でハダカ形の方が多かったが、93年はそれがより進んで全体では140例中9例、6.4%だけが尊敬形であった。
- (5) 『毎日』『日経』は59年は文末文中とも尊敬形の方が多かったが、93年は文中ではハダカ形の方が多くなっている。
- (6) 『産経』は59年は接続用法でハダカ形の方が多かったが、93年は文中文末とも尊敬形が増え、全体としても59年より93年の方が尊敬形が多くなっている。
- (7) 『読売』は59年は文末でハダカ形の方が多く、全体でもハダカ形が約70%を占めていたのに対し、93年では文末で尊敬形の方が多くなり、全体でもハダカ形は約60%と59年より10%減っている。93年の方が尊敬形の使用が多くなっている。

以上から、59年と93年とで、動詞については、『朝日』『毎日』『日経』は敬語使用が減っているが、『産経』『読売』は敬語使用が増えていることがわかる。

3-4 補助動詞を伴う動詞句の尊敬形の位置

補助動詞を伴う動詞句では、

- ㉕ 皇太子さまも……論文を書いておられる (『日経』93. 6. 9)
- ㉖ (雅子さんは) 書道茶道なども身につけ

られている (『産経』93. 6. 9)

のように2種類の敬意の表し方がある。㉕のように補助動詞部分を尊敬形にしているか、㉖のように本動詞部分を尊敬形にしているか、である。㉕のようなタイプをAタイプ、㉖のようなものをBタイプとしてまとめる。(表13)

表13 補助動詞を伴う動詞句の尊敬形の位置

	59年	93年	
A タイプ	～てこられる	1	0
	～ておかれる	2	0
	～ていらっしゃる	1	0
	～ていかれる	3	2
	～ておられる	4	1
計	11	3	
B タイプ	～(ら) れている	7	35
	～(ら) れており	0	2
	～(ら) れてきた	0	2
計	7	39	

59年はAタイプ11例、Bタイプ7例でAタイプの方が多いのに対して、93年ではBタイプの方が圧倒的に多くなっている。

ただし

- ㉗ お二人は…家族像を描いていかれるだろう (『日経』93. 6. 9)

のように、補助動詞「いく」を含む動詞句はAタイプしか出てこない。尊敬形の使われる位置が補助動詞の種類によっても異なることを示している。

—まとめ—

同じ皇太子の結婚の記事で、皇室の人物に対する待遇表現に1959年と1993年とで違いがあるのかどうか、現在の新聞の尊敬表現の実情はどうかを調べてみた。

全体として敬語の使い方は減っているが、呼称に関しては「さん/さま」、「皇太子/皇太子さま」などで敬意が高くなっていることがわかった。このことを記事の例で示す。

(—はハダカ形、==は尊敬形)

- ㉘ 皇太子はすでにそのご要望をしばしば表明しておられる (『産経』59. 4. 10)

⑳かつて皇太子さまは、…と知人に漏らしたことがある（『毎日』93. 6. 9）

文体としては、動詞やその人物に関する名詞をハダカ形にする93年の記事の方が簡潔でひきしまった感じになっている。

『朝日』は新聞の敬語の使い方について「できるだけすっきりしたい」として

具体的には、動詞の部分では敬語をできるだけ避けつつ、皇室典範の規定に沿った敬称の取り扱いを原則とし、記事の種類によって皇后陛下や各殿下を「さま」にするなど、読者に親しみを感じてもらうような表現を使うようにつとめています（93. 11. 28「読者と新聞」欄）

と述べているが、同じ皇室典範に沿いながら59年は「皇太子」と敬称なしの例や「美智子さん」と「さん」づけがあったのに、93年ではすべて「皇太子さま」「雅子さま」と逆行した結果になっているのはどう理解すればよいのか。

「皇后陛下」より「皇后さま」の方が親しみがこもっているのは認めるとして、「雅子

さん」より「雅子さま」が親しみが感じられると言えるだろうか。

94年2月6日の『朝日』の22面の9段目には「森滝さんお別れ会」と「雅子さま異常なし」の見出しが隣り合っていた。原水禁国民会議議長で1月25日に92歳で亡くなった森滝市郎さんのお別れの会のことだが、こうして並んだときでもやはり「雅子さま」の方が親しみがこもっているといえるのであろうか。

『乾日』の動詞にハダカ形が多くなっていたのは、偶然ではなく、意図的に避けているからであることがわかった。『毎日』『日経』で、このことに関する編集方針は記事にされてはいないようだが、59年との比較の結果から動詞部分の敬語を減らそうとしているらしいことは窺える。

一方で『産経』『読売』は59年より多く尊敬形を使うようになっていた。これらから、敬語の使い方の新聞間の差が広がってきているという事実がわかったのである。